

# クラウンマジェスタ(UZS186)

## ブレーキフルード交換要領

- 適応車種: クラウンマジェスタ(UZS186)
- 適応年式: 平成 16 年 7 月～平成 21 年 3 月

G-scan を使用して行なうクラウンマジェスタ(UZS186)のブレーキフルード交換要領を記載しますので、参考にしてください。

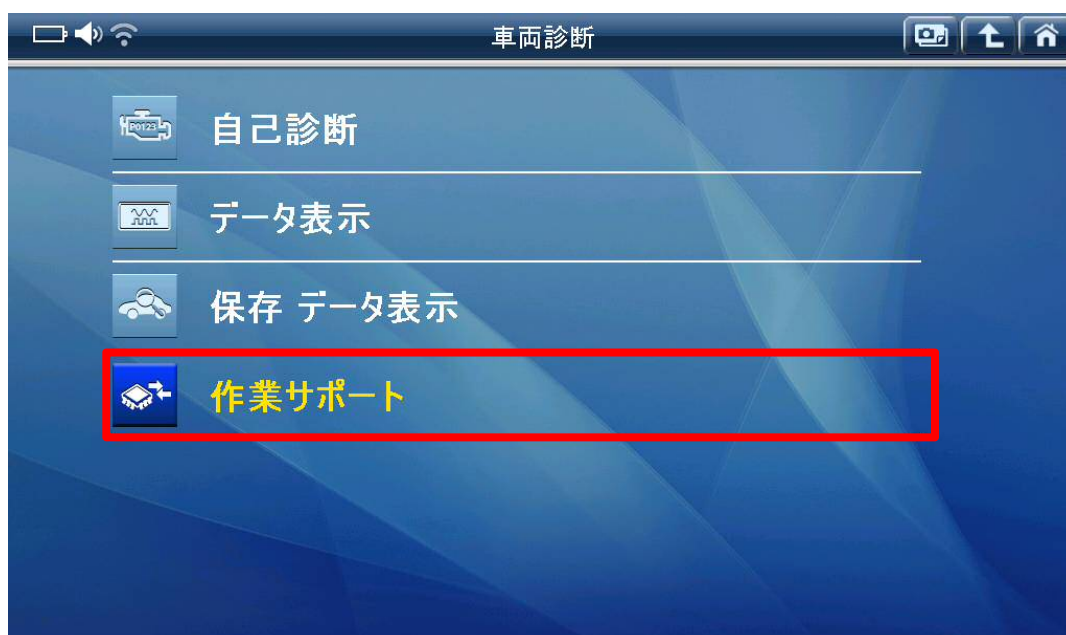
### ※注意※

- ・ブレーキフルードの交換は車両停止状態、車両が正常な状態(ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時)で実行してください。
- ・エア抜きを行う際はシフトレバーPレンジでパーキングブレーキを効かせた状態で作業を行なってください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで行なってください。エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ操作ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。
- ・交換中はリザーバタンク内のブレーキフルードが常にリザーバタンクを満たしている状態にしてください。

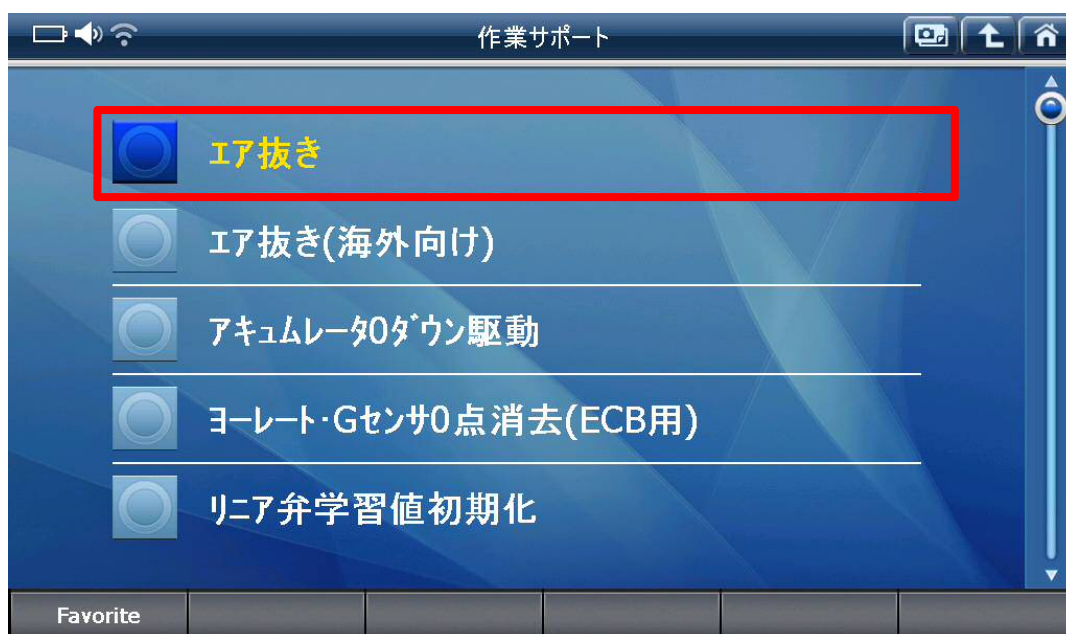
### ブレーキフルードの交換要領

1. プッシュスタート SW が OFF の状態で、G-scan を DLC3 コネクタ(OBD16 ピン)に接続してください。
2. プッシュスタート SW を ON にしてください。
3. G-scan の電源を ON にして車種、システムを選択してください。  
選択するシステムに関しては『ABS/VSC』又は『ABS/VSC/ARS』を選択してください。

4. 診断メニューにおいて、『作業サポート』→『エア抜き』の順番で項目を選択してください。エア抜き項目が表示されます。

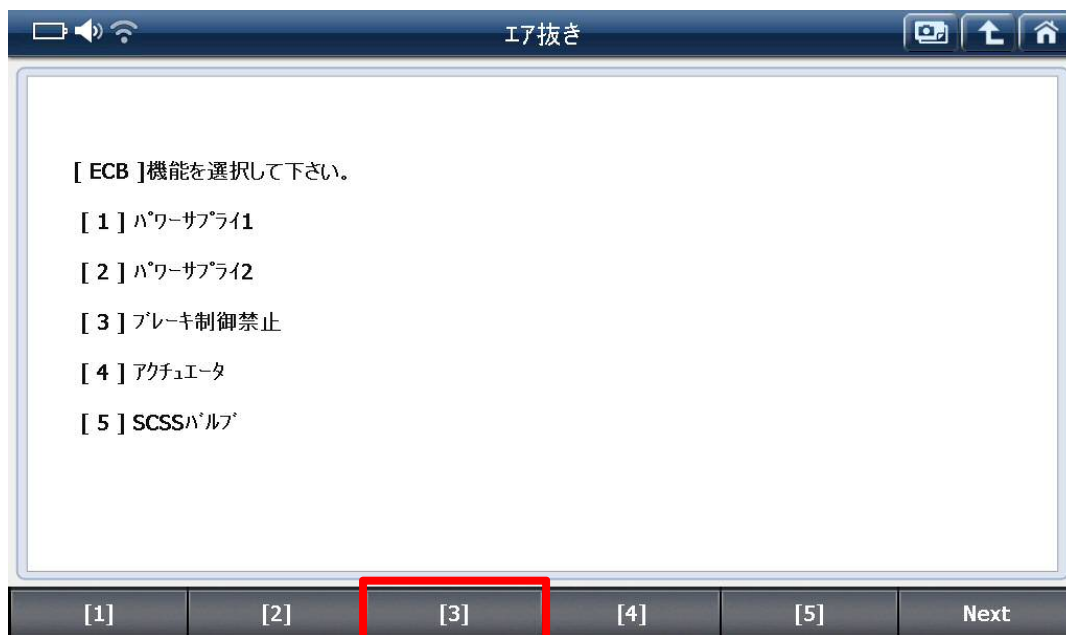


〈図: 作業サポートを選択〉



〈図: エア抜きを選択〉

5. 『ブレーキ制御禁止』を選択して、実行してください。



〈図:ブレーキ制御禁止を選択〉



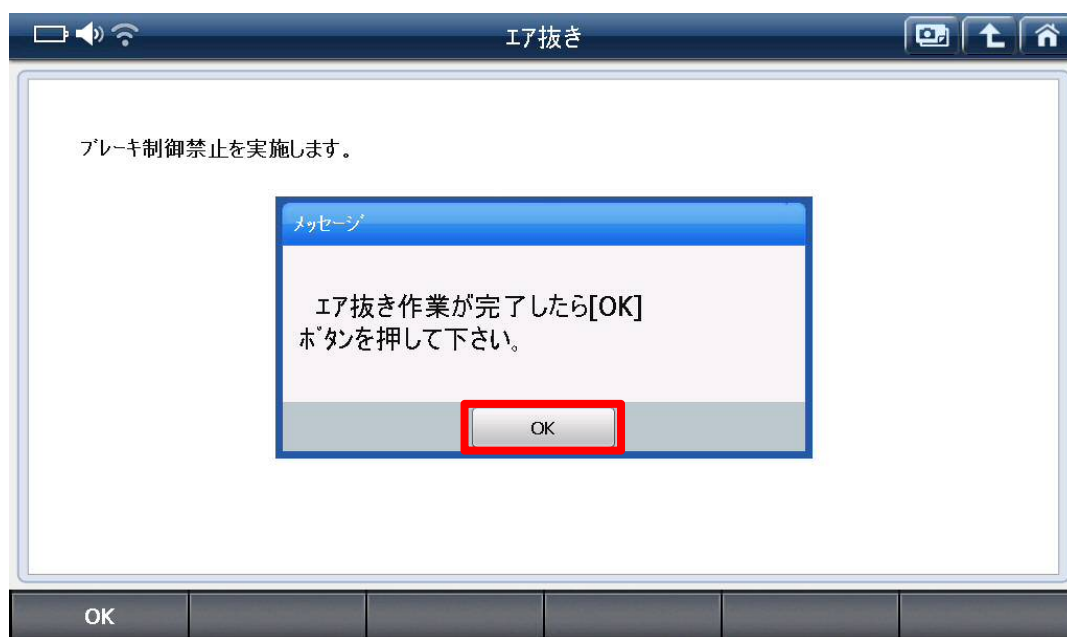
〈図:ブレーキ制御禁止を実行〉

6. ブレーキペダルをペダリングし、フロント右、左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。

**※注意※**

- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜きは右、左の順に行なってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 11N・m {110kgf・cm}

7. G-scan で実行した『ブレーキ制御禁止』を解除します。



〈図:ブレーキ制御禁止の解除〉

8. G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。

9. G-scan の診断メニューにおいて『作業サポート』→『エア抜き』の順番で項目を選択し、最後に『ブレーキ制御禁止』を選択し、再度実行してください。

10. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリア左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なって下さい。

**※注意※**

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク：  $11\text{N}\cdot\text{m}$  { $110\text{kgf}\cdot\text{cm}$ }

11. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリア右のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なって下さい。

**※注意※**

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク：  $11\text{N}\cdot\text{m}$  { $110\text{kgf}\cdot\text{cm}$ }